

## 大田黒公園

内藤真理子

もうすぐ「何でも書こう会」だ。何を書こう、と思っていたら、図書館で『杉並区史跡散歩地図』を見つけた。AコースからNコースまである。ちなみに、我が家の近辺は最終のNコースだ。熟考の末、Cコースの『荻窪界限』に行くことにして、友人が薦めてくれた大田黒公園を目的地に定めた。

曇り空で、風のある日だった。気温は二十五度程度、帽子をかぶりいざ出発。道に迷い乍ら、地図を広げ乍ら歩くこと一時間半。立派な瓦屋根の檜の門、その脇に「大田黒公園」の石碑がある。ここだ！

門を入ると中は緑一色、銀杏並木がずっと奥まで続いている。この公園は、大田黒元雄氏の屋敷跡を杉並区が整備し開園したもので、大田黒氏が八十六歳で逝去されるまで四十七年余りにわたって、この地で音楽活動を続けられ晩年を過ごされたとある。

彼のプロフィールが凄い。中学校（現、高校）卒業後、ピアノを東京音楽学校で、ベッツォルト師に学んだ。十九歳でロンドン大学に留学。二年後、第一次世界大戦の為帰国。その後東京にて執筆活動を……。

記念館には昭和八年に建築されたという西洋風の建物があり、室内には生前、氏が愛用した、スタインウェイ社製のピアノや蓄音機が展示されていた。外に目をやると広大な緑の庭。この豊かさはどこから来たのか？

展示されている説明文を隈なく読んでいくと、彼の父親は、大田黒重五郎。三井物産に入社後、当時経営が悪化していた芝浦製作所（現東芝）を再建した、とあった。

我が企業<sup>OB</sup>ペンクラブの東芝出身の方々の顔が頭に浮かんだ。音楽評論家の草分けとなった大田黒元雄氏と繋がりが……、彼を育んだの？

しかし、氏はその後電力事業を各地に展開し財を得たとある。大田黒元雄の豊かさは、東芝が財源ではなかった。

改めて庭に出ると、青々とした竹林。美女柳が嬾やかな黄色の花をそよがせ、青の濃淡の紫陽花が庭園を彩る。大きな池には黄金色の鯉が何匹も泳いでいる。清々しい。OBペンの仲間を思った。